

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



2月号 発行 平成27年3月2日



建設工事安全推進協議会安全パトロールを実施しました

1月16日(金)、いわき農林事務所管内建設工事安全推進協議会主催による工事現場安全パトロールを実施しました。

参加者は、いわき労働基準監督署、県関係機関、建設会社等の関係者40名でした。会長であるいわき農林事務所松本所長による出発式の挨拶の後、2班に分かれ、それぞれ3箇所の現場のパトロールを行い、終了後、現場ごとの指摘事項などを取りまとめ、発表しました。それを受けて労働基準監督署の寺島主任監督官と大西技官から講評をいただき、散会となりました。

現場での改善点は、「敷鉄板の盗難防止のための仮溶接等の実施」、「現場への第三者の侵入防止対策としてのバリケード設置」などが挙げられたほか、特に、講評の中では、「気を付けるというだけでなく、リスクアセスメントの具体的な事項を取り上げて、作業員の安全意識向上を図る」、「複数の重機を配置する場合に適切な運行計画を図る」、「幅1.5m以上となる昇降設備を配置する」、「敷鉄板の敷設等による重機等の安全な通行を図る」など参考となるものが多くありました。



(安全掲示板を確認する参加者)



(現場確認状況とりまとめの様子)

(総務部)

「平成26年度第2回いわき地域農業再生協議会通常総会」が開催されました！

1月20日(月)、平成26年度第2回いわき地域農業再生協議会の通常総会がJAいわき市飯野支店において開催されました。

まず事務局より、平成26年産米の経営所得安定対策の実績などの報告がありました。

続いて、いわき市の平成27年産米の生産数量の配分方法及び水田への主食用米以外の作付拡大を図るため、平成27年産米より新たに設けられた自主的取組参考値を努力目標として提示することが了承されました。

現在、米の生産・販売情勢は大きな変革を求められており、生産者の所得確保のため、いわき地方では、水田をフル活用した非主食用米の積極的な取組や他品目への転換を推進していくこととしています。

また、生産者を対象とした集落座談会の開催などのスケジュールが決定され、制度の周知や推進について、関係機関一丸となって取り組んでいくことが決議されました。

(農業振興普及部)



 **ゼロ災で行こう！！**
いわき市森林組合林業労働安全衛生講習会

1月16日（金）、いわき市森林組合主催による林業労働安全衛生講習会が、ピュアベルヴィいわきで開催されました。

この講習会は、いわき市森林組合が林業労働災害の未然防止のため毎年開催しているもので、組合職員や作業班、関係事業体など約100名が参加しました。

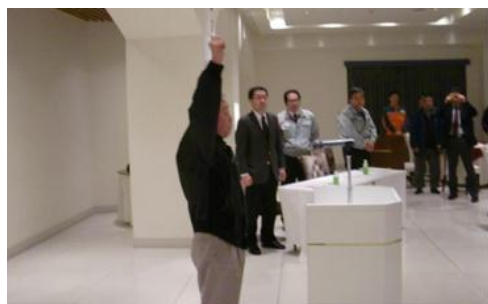
まず、主催者の田子代表理事組合長から「新たな年となり、新たな気持ちで林業労働災害の防止に努めてもらいたい」との挨拶がありました。続いて、いわき労働基準監督署空閑安全衛生課長から「林業労働災害防止対策」、平子安全衛生指導員から「いわき市内の林業労働安全パトロール」についての講話があり、最後に参加者全員で「ゼロ災でいこう」を唱和し、講習会は終了しました。

講習会終了後、参加者から、安全作業の重要性を改めて認識したとの話も聞かれ、林業労働災害の未然防止への意識向上がうかがわれました。


林業の作業環境は、条件が一様でないため、労働災害の発生頻度が高く、また、一度災害が発生すると重大事故につながる傾向があります。県においても、安全パトロール等を通じて、労働災害の未然防止に取り組んでいきます。



(田子代表理事組合長挨拶)



(「ゼロ災でいこう」の唱和)
 (森林林業部)

 **森林づくり活動ワークショップを開催しました！**

本県では、平成30年に開催することが内定した「第69回全国植樹祭」をひとつの契機として、森林ボランティア団体や企業など多様な主体による森林づくりを推進することとしております。

このため、県森林保全課では、地域の森林づくり活動を進めるにあたっての課題や解決策について話し合う森林づくり活動ワークショップを、1月16日（金）、平労働福祉会館において、開催しました。

参加者は、市内外の森林ボランティア、森林所有者、森林組合職員など25人で、宇都宮大学谷本名誉教授による講演、NPO法人いわきの森に親しむ会松崎理事長、ふくしまグリーン・フォレスターの会平子会長、いわき市森林組合松崎参事による事例発表の後、4つのグループに分かれ、討議が行われました。短い時間ではありましたが、地域の森林づくり活動を進めるためには「森林づくりを楽しんでもらう」、「もっと活動のPRを行い、若い人に参加してもらおう」など課題解決に向けた貴重な意見がありました。

参加者には、これからますます重要になってくる地域の森林づくり活動についての理解を深めた一日となりました。



(参加者によるグループ討議の様子)
 (森林林業部)





「いちごまつり」が 開催されました！

1月22日（木）、市内の保育園でJAいわき市いちご部会の主催による「いちごまつり」が開催されました。当日はいわき市をはじめ、全農福島郡山営農事業所、（株）平果、いわき農林事務所等の関係機関も出席し、いちごを通じて園児と交流を図りました。

いちご部会は、毎年近隣の幼稚園や保育所を訪れ、いちごのプレゼントと試食を通じていわきいちごのPRと交流を行っています。今年は、いわき市平の白土保育所が会場となりました。

坂本部長あいさつの後、関係機関から園児たちの代表にいちごが一箱ずつ手渡され、園児たちは「おいしそう」「重い～」等の声とともに、大きな箱入りのいちごを受け取っていました。

また、いちごを植えたプランターも「大事に育てて、赤い実が成ったらみんなで食べてください」と、保育園にプレゼントされました。

園児たちは、いわきいちごにはラップに灯台のマークがついていることや、今収穫したばかりでとても新鮮であることを知って、大好きないちごをととても嬉しそうにほおぼっていました。

試食会の会場に、いわき市農産物マスコットキャラクターの「さる1号」が登場すると、園児たちは大興奮。先を争うように頭をなでたり、握手したりと、大人気でした。最後に記念撮影して閉会となりました。



（坂本部長から園児へいちごを渡す様子）



（いちごを見た園児「おいしそう！」）



（「さる1号」が登場し、園児達大興奮）
（農業振興普及部）



平成26年度 漁青連リーダー研修会

2月6日（金）、福島県漁業協同組合青壮年部連絡協議会による研修会が、いわき市湯本「松柏館」で開催されました。

本研修会は、若い漁業者のリーダーを育成する目的で毎年開催されているもので、今年度は新地町からいわき市までの青年漁業者59名が参加しました。内容は、水産試験場による「放射線モニタリング検査結果」「震災後の底魚資源の状況」の2課題と福島県漁業協同組合連合会による「セーフティーネット」に関する説明が行われました。

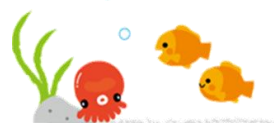
1時間半に及ぶ講義でしたが、魚介類の放射能が現在どのような状況にあるか、また震災後漁業が休止したことによって、底魚の資源状態がどうなっているのかなど、今後の漁業復興のためには重要な課題であることから、皆さん熱心に聞いていました。

質疑では、今後の漁業復興に向けて、モニタリングを強化していく必要があり、施設や検査機器の整備を検討してほしいなどの意見が出されました。



（研修会の様子）

（水産事務所）





いわきねぎ新規作付説明会を開催しました！

1月28日（水）、JAいわき市本店において、新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議主催の「いわきねぎ新規説明会」を開催しました。

いわき地方は、県内でも温暖な気候を活かして、様々な園芸作物が栽培されており、その中でも「いわきねぎ」は明治時代から栽培が続く県内一の産地です。

一方、東日本大震災による津波被害や高齢化により、生産者・栽培面積とも減少傾向にあり、大きな課題となっています。

このような中、いわき地方の関係機関が一丸となり、「いわきねぎ」の復興に向け「園芸産地復興計画」を策定し、重点的に取り組んでいます。

今回の説明会は、ねぎ栽培に興味のある方に、栽培の概要や営農指導体制等の理解を深めていただくことにより、新たな担い手の確保を目的としています。

参加者は28名。説明会終了後、栽培に本格的に取り組みたいと申し出る方もおり、新たなねぎ産地の担い手の出現が期待されます。

今後も、関係機関一丸となって「いわきねぎ」の活性化に努めていきます。



(説明会の様子)



(説明に聞き入る参加者)

(農業振興普及部)



6次化商品開発モニター調査を実施しました！

1月29日（木）に県いわき合同庁舎会議室で、「地域特産品創出事業」で開発中のいわき産の農産物を加工した18種類の産品を対象としたモニター調査を実施しました。

開発中の産品を実際に試食してもらい意見を聞くことにより、産品の改良・ブラッシュアップを図り、“消費者に評価され売れる商品”を開発するのが目的です。

モニター調査員には、客観的な調査とするため、性別、年齢に偏りがないよう選定されたいわき地方振興局、水産事務所、いわき農林事務所職員50名が参加しました。

モニター調査員には、一品ずつ試食してもらい、見た目の印象や素材の風味、食感などの感想を調査用紙に記入してもらいました。

今後は、調査結果を取りまとめ、事業者にフィードバックし、商品の開発に役立てていただくことにしています。

<p>ナメコキッシュ</p>  <p>使用材料：極小ナメコ</p> <p>タルト生地の中には極小ナメコと野菜ベーコンをのせて、濃厚なクリームソースと焼いた</p>	<p>トマトチーズベーグル</p>  <p>使用材料：トマトパウダー</p> <p>トマトパウダーを練り込んだベーグルの上にたっぷりチーズをかけて焼いた</p>
<p>イチジクタルト</p>  <p>使用材料：イチジクチップ、イチジクジャム</p> <p>イチジクチップ、ジャムと木の実をたっぷり入れたタルト</p>	<p>焼きドーナツ イチジク</p>  <p>使用材料：イチジクジャム</p> <p>ふわふわに焼き上げたプレーンの焼きドーナツにイチジクジャムをたっぷりサンドした</p>

(評価が高かった商品)

(企画部)

第5回！！
「いわき野菜deチョコベジ」が
開催されました！

2月1日（日）、JAいわき市直売所新鮮やさい館の主催（後援：福島県いわき農林事務所、いわき市見せる課）による、いわき市産の野菜を使った第5回チョコベジ体験が開催されました。

参加者は、市内在住の消費者10名で、今回は若い世代の家族参加が多く、チョコベジと併せて、実験や旬の野菜を使ったプチバイキングも体験し、楽しんでいました。

講師の野菜ソムリエ木下麻美氏から、今回食べる野菜（金時にんじん、春菊、パセリ、パプリカ、紫キャベツ）の説明後、親子でチョコレートソースを作り、野菜は型抜きや、スプレーチョコなどを使ったデコレーションも楽しみました。全ての食材は生食としたため、春菊を生で食べることが初めての人がほとんどであり、美味しさに驚いていました。

子供たちは、「春菊おいしい！」「キャベツ甘い！」と、チョコベジを経験しながら、食材そのものの味も堪能していました。

また、当日の食材を使用した料理8品をプチバイキング方式で試食しました。

紫キャベツのスープは、レモン汁や重曹を使って色の変化を楽しむなど、ちょっとした実験も体験しました。メニューについても保護者の方から、「子供たちがこんなに食べるなんて」、「うちでもぜひ作ってみます」などうれしい声が上がりました。



(参加者でパチリ)



(野菜をデコレーション)



(紫キャベツスープで色の変化を実験)
 (農業振興普及部)

「平成26年度
第1回ステップアップ講座
経営セミナー」を開催しました！

2月10日（火）に木幡会計事務所の木幡仁一税理士を講師に迎え、「第1回ステップアップ講座経営セミナー」を県いわき合同庁舎において開催しました。

本セミナーは、農業者が経営改善を図るため自らが経営目標を立て、その目標に向かって営農活動を行い、その結果を評価分析し次年度以降に反映させるなど、経営能力の向上を目的として毎年開催しています。

木幡先生からは、現状の営農活動を進めるための基礎となる「税制改正の内容と今後の方向」に関する情報提供及び「確定申告の決算書の見方」、「経営分析」について講義をいただきました。

また、先生は農業関連の知り合いも多いため、身近な事例を織り交ぜた具体的な説明があり、参加者は、熱心に聴き入るとともに、セミナー終了後は積極的に自身の経営について相談していました。

第2回は、2月27日（金）に、福島県農業会議より講師を招き、「農業経営の法人化や設立のポイント」について勉強します。



(木幡先生の講義を熱心に聴く参加者)
 (農業振興普及部)

「平成26年度福島県農村青年会議」で折笠明憲氏が最優秀賞、蛭田秀史氏が優秀賞を受賞しました！



2月6日（金）に郡山市労働福祉会館で開催された平成26年度福島県農業青年農村会議において、いわき農業青年クラブ連絡協議会の折笠明憲副会長がプロジェクト発表に、蛭田秀史副会長が意見発表に出場し、それぞれ最優秀賞（県知事賞）、優秀賞（公益財団法人福島県農業振興公社理事長賞）を受賞しました。

折笠氏は、中山間地域における水稲栽培の所得向上対策として、飼料用米の導入と稲わらロールの販売の取組について発表しました。中山間地域の現状や米価下落などの情勢をよく把握し、地域全体を捉えた、経営に結びつく実践的な研究が評価されました。

蛭田氏は、就農からこれまでの苦労や営農経験を基に、価格の自己決定の可能性や地域のアイディア創出による加工品の取組など、経営改善への意欲や将来の展望への考え方が評価されました。

なお、2人は平成27年10月に開催される「第46回東北農村青年会議秋田大会」に福島県代表として出場する予定です。



（発表中の折笠氏）



（発表中の蛭田氏）
（農業振興普及部）



いわき地方の農林畜産物 モニタリング検査結果

福島県が行った、いわき地方の1月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング検査結果をお知らせします。

検査した13品目35検体の全てにおいて、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は（表1）のとおりです。

（表1）放射性セシウムが1点も検出されなかった品目と検体数

トマト(施設) 3、コマツナ(施設) 2、ねぎ 2、葉ネギ 1、カラシナ 1、カブ 1、大豆 3、小豆 2、菌床しいたけ(施設) 4、菌床なめこ(施設) 3、エリンギ 1、牛肉 8、原乳 4

1月31日（土）現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されている品目は、（表2）のとおりです（1月29日（木）付けで「ユズ」の出荷制限が解除されました）。

（表2）出荷制限及び出荷自粛品目（1月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限 (7品目)	野菜・根菜・芋類	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、こしあぶら、たらめ（野生のものに限る）
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ
出荷自粛 (1品目)	畜産物	—
	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

また、昨年に引き続き平成26年産の米についても全量全袋検査を実施しており、1月末までの検査点数561,335点のうち、99.97%の561,171点が測定機器の測定下限値未満、164点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過したものはありません。

（表3）玄米（平成26年産）検査状況（1月末現在）

測定値区分 (単位：ベクレル/kg)	測定下限値 未満(<25)	25	51	76	100	計
		と 50	と 75	と 100	以上	
検査点数 (点)	561,171	164	0	0	—	561,335
割合 (%)	99.97	0.03	0.00	0.00	—	100.00

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、ご確認ください。

（企画部）

いわき花き鉢物研究会員が生産している、様々な季節の鉢花を紹介します。

◇ハーデンベルギア◇
(マメ科)

オーストラリア東部が原産です。つる性の常緑樹で、2～3mのつるを他のものに絡ませて伸びてゆきますので、鉢花の行燈仕立てが一般的です。花は、紫色、白色、ピンク色があり、葉の付け根から花茎を出し、藤の花のように、小さな花が穂状に開花します。

日当たりの良い場所を好みますが、夏の強日射は避けて下さい。冬は霜の当たらないような管理をしてください。

生育は旺盛なので、繁茂してきた場合は、適当なところで切り戻すとまた芽を吹いてきます。



◇プリムラ◇
(サクラソウ科)

原種はヨーロッパからアジアに広く分布しています。

本来多年草ですが、日本のような夏の暑さに弱いため、一年草に分類されています。耐寒性は強く、雪の下でも十分に越冬が可能です。

多彩な色がありますので、冬の花壇を彩る花材として、パンジーと共に人気があります。



◇ラナンキュラス◇
(キンポウゲ科)

地球上の広い範囲に分布していますが、現在出回っている品種は、西アジア、ヨーロッパが原産といわれています。

豊富な花色と、幾重にも重なった花弁のボリューム感から春の鉢物として人気があります。

乾燥球根を植えるときは、ゆっくりと吸水させ、戻してから植えることがコツです。

名前は、カエルが住むような湿地に多く自生していたことから、ラテン語でカエルを意味する rana から由来する説があります。



(農業振興普及部)

いわきの旬な情報をお知らせします！

パート1
いわき市内の宿泊のできる
グリーン・ツーリズム関係施設

今月号は、いわき市内の宿泊のできるグリーン・ツーリズム関係施設をご紹介します。グリーン・ツーリズムとは、農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のことです。

欧州では、農村に滞在しバカンスを過ごすという余暇の過ごし方が普及しており、イギリスではルーラル・ツーリズムやグリーン・ツーリズム、フランスではツーリズム・ベール(緑の旅)と呼ばれています。

いわき市内には、海や山といった自然を体感できる施設が複数ありますので、この機会に是非足を運んでみてください。



福島県いわき海浜自然の家
いわき市久之浜町田之綱字向山53
TEL : 0246-32-7700



いわきの里 鬼ヶ城
いわき市川前町上補売字小久田73-3
TEL : 0246-84-2288



※お出掛けの際は、事前にお問合せください。



自然と触れ合える
スリキなどところまで。
お出かけください！

●来月号はグリーン・ツーリズム関係施設パート2をご紹介します！

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日（3月は8日（日））に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。
なお、内容は変更される場合がありますのでご了承ください。
また、営業日（メニューの実施日）については、事前にご確認ください。

◇スタンド割烹 みのる（佐糠町東一丁目）

推進日における旬の食材を使用したメニュー

- ・地産地消メニュー：銀杏ご飯、そばぜんざい、おひたし等
- ・説明：福島県産の安心・安全な食材（米、銀杏、小松菜、小豆ほうれん草等）をふんだんに使用しています。

◇いわき食彩館株式会社 スカイストア（平字一丁目）

推進日における旬の食材を使用したメニュー

- ・地産地消メニュー：弁当、惣菜等
- ・説明：福島県産の安心・安全な食材（米、大根、キャベツ、蓮根人参等）をふんだんに使用しています。

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1) モニタリング情報検索
 - (2) 出荷制限等一覧表



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース